

知ってほしい!

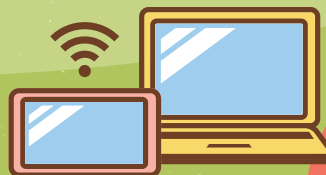
きつ おん

ぼくの吃音のこと、 わたしの不器用さのこと

子どもたちの多様性を認めるということを大きなテーマとしています。
子どもたちが持つ特性の中には、本人の努力では改善が難しいことがあります。
「吃音症」「発達性協調運動症(DCD)」というのは、
周囲からなかなか理解を得られにくいのが現状です。
子どもたちはどう困るのか。保護者や支援者の方々にお伝えしたいと思います。

オンライン開催

Zoom (ウェビナー)



参加費
無料

令和4年11月26日土

13:00～16:30(入室可能12:45～)

定員 500名(先着順) **要申込**

申込締切 11月18日(金)

対象

- 吃音やDCDのあるお子さんをもつご家族・興味のある方
- 幼稚園・保育園・学校の先生
- ことばの教室や療育施設の支援者・セラピストなど

申込方法は裏面をご覧ください

講演1

どもる子どもたちの理解

～支援者にできること～

愛知淑徳大学 講師

山田病院小児リハビリテーション 講師

板倉 寿明氏

講演2

運動の不器用さがある子どもの理解

～発達性協調運動症(DCD)～

中部大学 生命健康科学部 作業療法科 講師

山田病院小児リハビリテーション 講師

塩津 裕康氏

主催 医療法人 和光会 山田病院

後援

岐阜市・本巣市・瑞穂市・岐阜市教育委員会
岐阜県作業療法士会・岐阜県言語聴覚士会

お問い合わせ 山田病院 リハビリテーション部

✉ shoni-seminar@wakokai.or.jp



なごみちゃん ひかるちゃん

講師プロフィール

愛知淑徳大学 講師
山田病院小児リハビリテーション 講師

いた くら とし あき

板倉 寿明氏



3歳で発吃。「どもる自分」に悩みながら18歳まで郡上市で過ごし、自分への信頼回復をめざして上京。その後、1983年から岐阜県の特別支援学校に35年間勤務。2014年から4年間、岐阜本巣特別支援学校で校長を務め、2018年3月定年退職。2008年から岐阜吃音臨床研究会事務局長として学齢期の吃音児の支援に当たり、吃音が不幸ではないと思える生き方を提案している。

中部大学 生命健康科学部 作業療法科 講師
山田病院小児リハビリテーション 講師

しお づ ひろ やす

塩津 裕康氏



1985年三重県生まれ。2008年に作業療法士免許取得後、2015年に川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科にて博士(リハビリテーション学)を取得。2020年にInternational Cognitive Approaches Network (ICAN)から認定を受け、日本人初の認定CO-OPセラピストとなった。著書に『子どもと作戦会議 CO-OPアプローチ入門(クリエイツかもがわ)』などがある。

申込方法

以下のいずれかの方法でお申し込みください。

※参加される方は各個人でお申し込みください。

- ① QR 右にあるQRコードを読み取り、必要事項を記入の上、送信。
- ② ホームページ 山田病院のホームページ(<https://www.yamada-hospital.jp/>)の吃音セミナーのお知らせより、申し込みフォームに必要事項を記入の上、送信。

※不明な点がございましたら、下記お問い合わせ先まで、ご連絡をお願いいたします。

申込締切：令和4年11月18日(金)

申し込み
フォーム



Zoom(ウェビナー)の参加方法(定員:500名)

お申し込みいただいた皆さまへ、
開催日の3日前までにセミナーへアクセスするための招待メールをお送りします。
セミナー当日、招待メールに記載のURLよりセミナーへご参加ください。



お問い合わせ

山田病院 リハビリテーション部

✉ shoni-seminar@wakokai.or.jp